

”文理融合”ならでの 多分野にわたる教員陣



「学部・奨励学生」募集要項(概要)

※詳細は、年度毎に公表される「募集要項」で確認してください。
申請時期は、3年次・秋学期(9月頃)です。

- 募集人数** 20名程度
- 申請資格** 申請時において以下の資格をすべて満たすこと。
 (1) 本学文化情報学部にて2014年4月以降に入学し、申請時において、5セメスター以上の期間在学している者。(※当制度は、2013年度以前生には適用されません。)
 (2) 本研究科への進学を希望し、本学大学院文化情報学研究科教員からの推薦を受けた者。
 (3) 3年次春学期までに修得した科目のGPA^(※)
 (※)GPAが、年度毎に「募集要項」で公表される評点以上の者。
 (4) 3年次秋学期終了時点で「卒業研究I」「卒業研究II」以外の卒業必要単位数である116単位以上を修得する見込みの者。
 (※各科目群に定められた卒業要件の単位修得の状況は問わない。)
 ただし第3年次編入生ならびに転入生の単位取得要件は、次のとおり。
 3年次秋学期終了時点で「卒業研究I」「卒業研究II」以外の全ての必修科目の単位を含め、卒業必要要件に算入される単位数100単位以上を修得する見込みの者。
 注)「学部・奨励学生」に決定後、申請年度の3月末において上記(1)～(4)に定めた条件を満たすことができなかった場合、その決定は取り消されます。
- 申請書類**
 「学部・奨励学生」申請書
 「学部・奨励学生」研究計画書
 申請書類は文化情報学部HPよりダウンロードできます。

用語解説

(※本誌で使用している用語を解説します。)

学部・奨励学生

文化情報学部4年次に在籍しながら、大学院文化情報学研究科に開講される科目を履修することが認められる学生のことです。「学部・奨励学生」として認定されるためには、募集要項にもとじて申請し、審査に合格する必要があります。「学部・奨励学生」は、「卒業研究」をはじめ、通常の4年次生と同じように学部での履修を行いながら並行して大学院の授業を履修します。

文化情報学研究科で開講される科目(「大学院科目」)を履修する際の履修条件等

- ① 文化情報学研究科が第1・2セメスターに開講する授業科目の中から、10単位以上を履修しなければならない。
- ② ①による履修は、『学部における「自由科目(*)」』として登録履修する。
 (*:学部における当該年度の最高登録単位数に含まれるが、学部の卒業要件単位数には算入されない。

大学院・奨励学生

「学部・奨励学生」の認定を受けた学生が、学部4年次で所定の大学院科目の履修を行い、審査に合格すると、大学院文化情報学研究科へ進学後は、「大学院・奨励学生」として認められます。「大学院・奨励学生」には、大学院進学後、1年間で修士論文を提出することが認められます。

「大学院・奨励学生」として大学院へ進学する場合の条件

- ① 学部4年次生の期間に「学部・奨励学生」として大学院科目を10単位以上修得すること。
- ② 学部4年次生の期間に「シンポジウム1・2」「文化情報学研究実験1・II」の単位を修得し、かつ所定の審査に合格すること。
- ③ 学部4年次生の年度末に学部卒業の要件を満たすこと。
- ④ 所定の入学試験に合格すること。

入学前単位認定

「学部・奨励学生」は学部在籍中に大学院科目を先行して履修しますが、取得した大学院科目の単位は、大学院進学後、15単位を上限に単位認定を受け、大学院での取得単位数に算入することが可能です。これを「入学前単位認定」と言います。

イラスト解説

(※本誌イラストを解説します。)

「学部・奨励学生」の認定を受けた学生も、学部4年次では、「卒業研究」をはじめ、学部を卒業するために必要な単位の取得が必要であることには変わりはありません。その上で、大学院に設置された科目を並行して履修します。本誌イラストでは、「学部・奨励学生」の認定を受けた後、大学院を修了するまでに、幾つかの進路選択が可能であることを紹介しています。履修する大学院科目や単位の取得状況などによって、次のような進路に分かれます。イラストと合わせて参照してください。

■「学部・奨励学生」が、学部4年次に、「定められた大学院科目(「シンポジウム1・2」「文化情報学研究実験1・II)」を履修し、かつ審査を経て合格となった場合、大学院進学後は、「大学院・奨励学生」として科目履修や研究を行うことが認められます。「大学院・奨励学生」は、「入学前単位認定」が受けられるほか、大学院1年次で修了に必要な要件を満たし、かつ審査に合格すれば、「早期修了」が可能です。

■「学部・奨励学生」が、学部4年次に、「定められた大学院科目(「シンポジウム1・2」「文化情報学研究実験1・II)」を履修した場合でも、審査の結果合格とならない場合は、「大学院・奨励学生」の認定を受けることはできません。それでも、大学院入試では「特別推薦制度」を利用することが可能です。また、「入学前単位認定」を受けることも可能なため、大学院(博士課程前期課程)ではより研究に集中することが可能です。

上記で説明された「シンポジウム1・2」「文化情報学研究実験1・II」を学部4年次に履修することは必須ではありません。学部4年次にこれらの科目を履修しない場合、大学院進学後、「大学院・奨励学生」となることはできませんが、上記の場合と同様、「特別推薦制度」を利用して大学院を受験することや「入学前単位認定」を受けることが可能です。

早期修了

「大学院・奨励学生」が1年間で修士論文を完成させ、かつ大学院前期課程を修了するために必要な要件を全て満たした上で審査に合格すると、前期課程を1年間で修了することが可能となります。1年間で修士の学位を取得することを「早期修了」と言います。

文化情報学研究科博士課程(前期課程)入学試験

大学院へ進学する際、入学試験を受験します。これは、「学部・奨励学生」が文化情報学研究科に進学する際も同じです。文化情報学研究科の入学試験は、年2回(【秋期実施】【春期実施】)実施されます。どちらの機会に受験しても構いません。なお、「学部・奨励学生」が大学院入試を受験する際、「一般入学」による受験とは別に設けられた「特別推薦制度」を利用することができます。一般に受験する場合と、受験科目などは異なります。詳しくは、入試要項を参照してください。

(注1)「特別推薦制度」によって大学院へ入学する場合、入学後、一部の奨学金において給付対象とならないことがあります。

(注2)審査1、審査2とは別に、大学院入試を受験する際、出願書類として「研究計画書」の提出が必要。
 (【秋期実施】【春期実施】ともに)



「学部・奨励学生」制度と 「大学院・奨励学生」制度のご案内



学部入学から最短5年で、 大学院(博士課程前期課程)を修了できる キャリアプランにチャレンジを!

「学部・奨励学生」制度と「大学院・奨励学生」制度は、文化情報学部在学中から大学院を目指す学生に対して、文化情報学研究科へのスムーズな進学を支援し、早期修了(最短5年)をかなえる制度です。早い段階から計画的に目標を定めることで、より深い学問への探求が可能となります。

同志社大学 文化情報学部・文化情報学研究科
 Faculty of Culture and Information Science
 Graduate School of Culture and Information Science

3段階の審査を経て、 早期修了の道も。

「学部・奨励学生」になると...

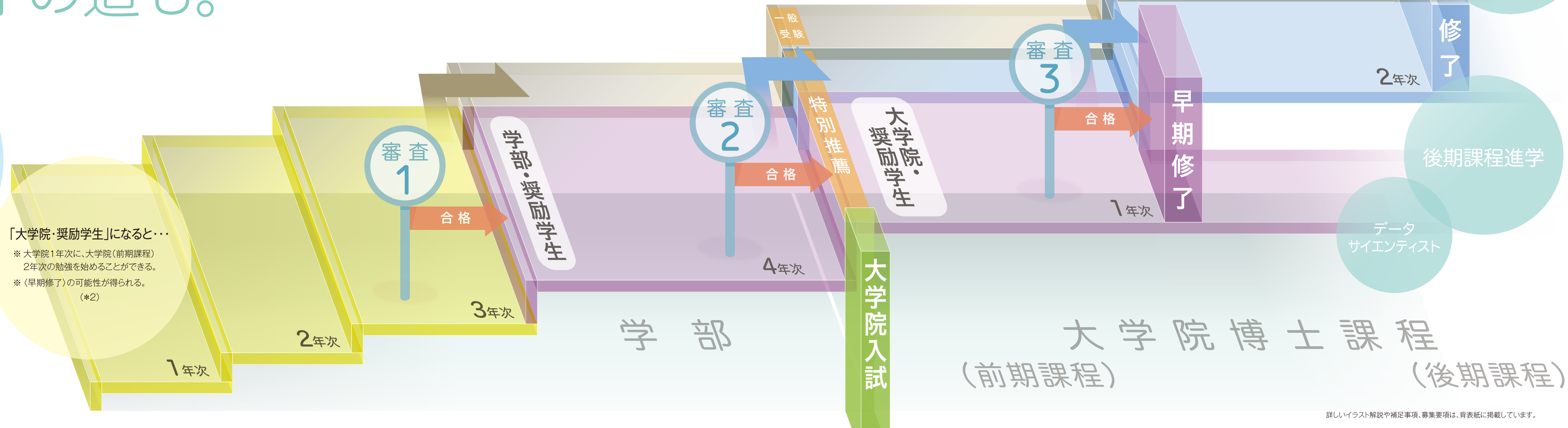
- ※ 学部4年次から、大学院(前期課程)1年次の勉強を始めることができる。
- ※ 大学院入試を受験する際、(特別推薦)を受けることができる。
- ※ 大学院進学後、15単位を上限に入学前単位認定をうけることができる。
(*1)

【注意】大学院の勉強を行いながら、「卒業研究」はじめ、学部卒業に必要な履修も並行して行います。しっかりと学修計画を立てて履修することが大切です。

「大学院・奨励学生」になると...

- ※ 大学院1年次に、大学院(前期課程)2年次の勉強を始めることができる。
- ※ (早期修了)の可能性が得られる。
(*2)

(*1)(*2)
ここに記載の内容は、同志社大学文化情報学
研究科博士課程(前期課程)に進学する場合
の取り扱いです。



詳しいイラスト解説や補正事項、募集要項は、背表紙に掲載しています。

審査1 学部・奨励学生

【申請～資格審査】「学部・奨励学生」認定可否の判定審査

審査項目	評価内容など
<ul style="list-style-type: none"> ● 3年次春学期までのGPA ● 研究目的の明確さ ● 大学院進学に対する熱意や意欲 	所定の出願資格を満たしていることを前提に、申請書類や口頭試問で総合的に審査を行なう。 申請(審査)スケジュール (9月)申請 (10月)口頭試問 (11月)書類審査
特記事項 申請資格を満たしていても、審査の認定不可(不合格)となる場合がある。	申請書類 「学部・奨励学生/申請書」(※所定様式) 「学部・奨励学生/研究計画書」(※所定様式)

審査2 大学院・奨励学生

【申請～資格審査】「大学院・奨励学生」認定可否の判定審査

審査項目	評価内容など
<ul style="list-style-type: none"> ● 研究課題を研究する意義の明確さ ● 研究課題の新規性 ● 方法論の適切性 ● 予測される結論 ● 総合評価 	「シンポジウム1・2」「文化情報学研究実験I・II」の単位を取得していることを前提に、申請書類や口頭試問で総合的に審査を行なう。 申請(審査)スケジュール (1月～2月)申請(文化情報学研究科博士課程(前期課程)入学試験【春期実施】の出願期間と同期間) (2月)口頭試問(試問日は上記入試日と同様)、書類審査
特記事項 大学院前期課程早期修了の可能性までを見越して審査が行なわれるため、入試判定によって大学院進学が認められる(合格)場合でも、「大学院・奨励学生」の資格は認められない(認定不可)場合がある。	申請書類 「自己推薦状」(※所定様式) 「大学院・奨励学生/研究計画書」(※所定様式) 「指導教員推薦状」(※別途、指導教員より)
特記事項 「シンポジウム1～4」の評価は、学部・奨励学生、大学院・奨励学生と一般の前期課程の学生との間に差を設けない。「シンポジウム1～4」の可否と「審査2」、「審査3」の可否は必ずしも一致しない。	

審査3 大学院・奨励学生

【早期修了判定】大学院前期課程の早期修了判定

審査項目	評価内容など
<ul style="list-style-type: none"> ● 研究課題の新規性・独創性 ● 方法論の有用性 ● 結論の正確さ ● 論文の構成と読みやすさ ● 総合評価 	「シンポジウム3・4」「文化情報学研究実験Ⅲ・Ⅳ」の単位を取得していることを前提に、修士論文審査要旨、修士論文試問会審査報告書、修士論文によって修了判定を行なう。 申請(審査)スケジュール (1月～2月)修了判定審査(前期課程2年次生対象の修了判定と合わせて判定)
特記事項 大学院前期課程早期修了の観点から、不合格判定となる場合もある。一方、早期修了判定が合格でも、修了後のキャリアパスが決まっていない場合、不都合が生じることがある。希望する場合は、指導教員とも綿密に話し合った上で慎重な判断が必要。	